

婦人教育者

成女高等女學校長 宮 田 修

婦人に同情を有する識者及び國家經濟の將來を慮る學者の二方面に於て、各自、相異なる立場からではあるが、將來出来るだけ婦人の教育者を養成し、少くとも普通教育だけは是等婦人の手に委ねたいといふ希望の存することは、諸種の事實から推知するに難くはないのである。

けれども、目下のところ、事實に於ては、なるべく。

△婦人の教育者

の數を減らし▽

男子の教育者を一人でも多くしやうとして居るやうである。就中東京市内の小學校に就てみるに、その統計の示すところに據ると、又各校長の意見に徴してみると、經濟の餘裕さへあれば女教員を排して男教員を増加しやうとして居るのが目下の

状態であるらしい。してみると今日婦人の教育者は經濟の不足から止むなく用ゐられて居るのであつて、教員として價値があるから用ゐられて居るのでないことは明かである。これは國家經濟に考を持つ人の問題でもあるし、又婦人に同情ある識者の苦痛とする所でもあるが、目下教職に従事して居る婦人、及び將來之に心を寄せて居る婦人に取つては、直接頭上に振り掛つて來る重大問題と言はなければならぬ。

我々も亦、經濟上の見地から、將又婦人自身に適した仕事といふ點から、一般に婦人の位置を高めて行きたいといふ根據の下に、今日よりも明日、今年よりも明年と、漸々日子を経過するに従つて、普通教育の大半はこれを婦人の手に委ねるやうにしたいといふ考を懷いて居るのである。であるか

ら我々は婦人の教育者の現状を見る毎に、各校長の意見を聞く毎に、

△遺憾を覺える

事非常である▽

吾人は如上の事實に對して遺憾を感ずると共にその源を少しく考察してみやうと思ふのである。

婦人は何故教職に不適當であるか？

何故婦人に位置を與へないことにするのか？

女教員の數が日に月に尠くなつて行く理由、校長若しくは學校當事者の懷いて居る意見を測度してみるに、其處には必ずしも異性を排して、同性の位置を堅固にしやうといふ如き偏頗な、排他的の考が存在して居るのではないことを承認しなければならぬのである。

婦人教育者の非難せらるゝ第一の理由は、婦人教育者は概して男子教育者と違つて、自信力に乏しいといふことであるらしい、即ち教職に従事して、生徒を教授、訓化してゆく上に、自己を恃む

念慮は、之を男子の教育者には多く見ることが出来るが、婦人の教育者には夫程のしつかりした自信力を持つ者が尠いといふのが一般校長の意見である、本來人の師となるべき者は尠くともそのあづかつた

△生徒に對して

絶對の感化力▽

を有するといふ自信を持たなければならぬ、自分の一言一行が生徒の上に現れてゆくもの、又現せなければならぬものといふ緊固な自負心がなければならぬ筈である。若し自分は到底人の師たるに堪えない、又は人を教ふるだけの力量を備へて居ないと自覺して居るならば、その人は、多少教授法が巧みであらうとも、又その様子が品がよからうとも、決して教師としての資格を備へて居るものとは言へない筈である。曲りなりにも我は教師なりといふ自覺を持たなければ到底人の子を薰陶して行ける筈のものではない。然るに婦人の教

育者なるものに果してそれだけの自負心があるか
何うか、甚だ疑しい態度なり、事實なりを認める
ことが多いと思ふ。蓋しこれは従來の婦人が兎角
自負心を虐げられて、

△自己に對する

的確な觀念を▽

抑へられて居つた長い間の遺傳があるわけだから
自から男子同様な考のもとに世の中に立つことは
六ヶ敷いかも知れない、しかし苟くも事に當つて
その責任を盡さなければならぬ立場にあるものは
進んで自己に對する眞の敬畏の下に、その職責を
盡さねばならぬのは言ふまでもないことである。
それには苟くも自分のあづかつて居る仕事はどこ
までも貫いて、これを全うする程の覺悟と努力と
がなければならぬ。が多くの婦人の教育者が教
育界に重きを置かれぬのは、さういふ自信力が
薄いからではなからうか。どこまでもその職責を
全うするといふ緊固な意志を缺いて居るからでは

なからうか。小なる自己にのみ執着することを知
つて眞の自己を發揮する場合には自分は女である
斯くの如き困難には堪えないと自ら逃げて了ふの
ではあるまいか。大事なことを主張する場合に相
手が男子であらうが、校長であらうがそんなこと
に頓着なく

△飽くまで所信

を披瀝しやう▽

といふ熱心が足りないからではあるまいか。兎に
角従來の多くの婦人教育者にはその志を奪ふこと
の出来ないといふ程の大決心を持つたものが尠か
つたといふのが兎角排除される一の原因であるら
しい。

次ぎには教職に従事する者は常に時代の變遷に
注目し、周圍の事情に適應した新工夫を要する筈
である。過去に於ては金科玉條とすべきことであ
つても、時と場所との關係から全然これを翻さな
ければならぬ場合もあらうし又は或部分を改めて

新しい要求を入れなければならぬ場合もあらうと思ふ、就中日々教へて居る授業上のことに就て言へばその方法は常に新でなくてはならない、従つてその新なる方法を考へつゝあると同時に、その方法を考へる頭腦を作りつゝ進まなければならぬ筈である。ところで婦人の教育者の多くは一向その意味に於ての研究心を持つて居ないといふのが

△排斥の第二の

理由になつて▽

居るらしい。早い話が學校を參觀してみると男教員によつて工夫されたといふものは何處の學校へ行つても多少あるが女教員によつて工夫されたといふものに逢着することは實に稀である。又女教員に會つてその方法を聞いてみると、中には細かく穿鑿してゐて、その熱心に驚かされるといふやうなものはないが、大部分の女教員は面倒臭ければ棄て、顧みない、いよく困れば同僚に聞くばかりである。自分で字引を引いて苦心して

讀まない、方法を考へない、若しくは實際に従事しない、斯様に職務に對する努力は勿論のこと、自分の頭腦を開拓するなどといふことは殆んど皆無である、故に學校卒業當時には相當に新しい思想を懷いてゐて將來を囑せられてゐたものも絶え間なく移行行く時代の進歩には遂に遅らさるゝことゝなるのである。これでは

△成程教師とし

て値打がない▽

否値打がないばかりでなく、在つて益なく寧ろ害を爲す場合も尠くないことゝなるのである。

第三には婦人教育者は無精でいけないといふ非難がある。子供の世話をするには多少の勞力を要するのであるが婦人の教育者は妙に上品振るのか自から手を下すことを敢てしない、直ぐ小使を呼ぶとか男教員に頼むとかして、骨の折れる仕事には一向手出しをしないのである。又掃除などをする場合にも教師自身が先へ立つて身體を動かすや

うにすれば生徒もよろこんで行ふのであるが、婦人の教育家は斯る場合には遠くから傍觀して居るやうである。この非難も或點までは確に當つて居ると思ふ。しかしこの點に關しても現在の女教員のみを攻撃するのは些か酷に失する、即ちこれは從來の婦人の悪い習慣、就中中流以上の婦人の、重いものは著より他に持つたことはないなぞといふ

△間違つた上

品振りに其▽

起源を發して居るからである、しかし斯る時代は既に永久に過ぎ去つて了つたのである。勤勞主義が男女を通じて時代の要求である今日、自分自身としては勿論、子供を教養する上に於て先づ範を示さざるべからざる教師が舊式な考から無精を極め込むなどといふことは確かに實社會に起つて仕事をする價値を缺いて居るものと看做さなければならぬ。

第四には婦人教育者は男子教育者に比して、子

供に同化しやうとする努力が足りないといふ非難がある。是等も事實あることのやうに考へられる、試みに幼稚園の子供を捉へて、その先生に對する感じを話させてみると彼等は小學校の子供と違つて、その教師を批評する頭腦はないが、その答へる言葉の中に男女兩教師の差異をよく言ひ現すのである、幼稚園の子供は女の先生のことをやさしくて親切であるとはいふが、おもしろくていゝといつて懐いて行くのは男の先生に對してである。これを以てみても女はやさしみと親切とに於て優つて居るやうであるが、

△子供と一緒に

遊びその元氣▽

を鼓舞して行くことをせぬから斯る批評を受けるのである。現に我々が參觀しても、男子の教師は參觀人の有無に拘らず、お伽話を話して居る時でも、運動場に出て遊んで居る時でも、全く子供に同化して、身長の高い子供が多くの子供の中に混

つていも居るかの如くに大人といふ自己を棄て、子供と一緒にたつて居るのを見受けるのであるが、婦人教育者は平素は何うか分らぬが、尠くも我々の參觀する日には、遠くから見たところでは、成程子供と遊んで居るやうには見えるが無邪氣な子供になりきつて遊んでゐないのである。勿論子供と同化して了ふといふことばかりがいゝのではないが子供の元氣を鼓舞させやうとする場合には先生と生徒とは違ふと言つたやうな區劃を設けては誘導することは出来ないのである、間違つた參觀者があの有様は何うだといふ位にまで子供らしくならなければ子供の元氣を發揚して、その中から引き出して來る力を掴むことは出来ない。この點で婦人教育者は男子のそれに比して小さな自分といふものを庇護ふことに用意はあつてもその職務を全うするといふ

△大きな自分を

缺いて居る點▽

が尠くないと思ふ。

以上の諸點から考へてみれば成程現在の多くの女教師は男教員に比して劣ることが尠くない、これでは幾多の學校當事者が經濟の許す限り男教員を増やし、女教員を排するといふ意見を懐くのも無理がないわけである。しかしこのまゝで通して行くといふことは婦人自身の上から言つても、國家經濟の將來から言つても、極めて憾みとすべきことであらうと思ふ、婦人は生れ付き、以上の如き缺點を改めることが出来ないものであらうかといふにさうではない。といふのは亞米利加邊の狀態に考へても分ることであつて彼の國の教師の大半は婦人であり、又それ等婦人の施す教育が功果的であるのを見ても女子なるが故に出来ないのではなく、我國に於ては未だ古い退嬰的思想が婦人の中に潜んで居るために現在の狀態を起して居ること、思ふ、願はくば女子教育者の多くが發奮努力して速かにこの事情を打破し生きた教育家として實社會より迎へられんことを望む次第である。(文責在記者)